

# 秋の七草

山上憶良：秋の野に咲きたる花を指折り（およびをり）

かき数ふれば七種（ななくさ）の花（万景集・巻八 1537）

【萩】（はぎ）

萩はもともと生え芽（はえぎ）という意味があり、「芽が出る」すなわち立身出世を意味している。

【尾花】（おばな）

ススキの花穂。花の形が獣の尾に似ていることから尾花といわれている。また、稲穂に例えられ稲の神に捧げる吉祥植物とされ、五穀豊穡を表す。

【葛】（くず）

旺盛な繁殖力や、どこまでも伸びていく蔓の生命力。また、葛根は薬として使われることから、無病長寿を意味している。

【撫子】（なでしこ）

河原撫子のこと。多くの花の中で可憐な美しさがひととき目立つことから愛児に例えられ、撫子は「子供を撫でる」花という意味があり、子供が健やか育つという願いが込められている。

【女郎花】（おみなえし）

黄色の小さい鐘の形をした花をたくさん咲かせることから、鐘（カネ）がいっぱいになる金運を呼ぶ花とされている。

【藤袴】（ふじばかま）

清浄な花から高貴な香気が放たれ、その香りが邪気を祓うといわれている。

【桔梗】（ききょう）

桔梗の桔は「木」へんに「吉」と書くことから、生命力のある吉祥を表している。



【萩】（はぎ）



【尾花】（おばな：薄(ススキ)）



【葛】（くず）



【撫子】（なでしこ）



【女郎花】（おみなえし）



大分でのフジバカマは絶滅?のため類似の「オオヒヨドリバナ」で代替

【藤袴】（ふじばかま）



【桔梗】（ききょう）

”おすきをふくは”

お=オミナエシ  
す=ススキ  
き=キキョウ  
な=ナデシコ  
ふ=フジバカマ  
く=クズ  
は=ハギ